

OBI

ニューズレター

同窓会 22号

お茶の水聖書学院 同窓会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル

TEL:03-3296-1006 FAX:03-3296-4641

巻頭の言葉：「更新のプレゼント」

『あなたの一生を良きもので満たされる。
あなたの若さは、鷺のように、新しくなる。』

1991年4月に、お茶の水聖書学院が開設されて、愈々17周年目に入ろうとしています。そして、毎年毎年、新しい御業をもって導いて下さっています全知全能の主特別な意味をもって、新年の感謝を捧げ、また同窓会の皆様にご挨拶を申し上げます。

口を開けば、同窓生、在校生のゆえの感謝・感激・感動を語る者になってしまいました。が、私をそのように仕向けて下さる皆様の存在は私にとって大きな祝福また励ましです。諸先生方や奥様方の言葉を借りるならば、正に「生き甲斐」です。

さて、当学院は時代を反映して、また、優れて主の御業として、熟年層が多く学んでおられることはご存知の通りです。

年が改まるとともに熟年にふさわしく自分の心身に起こること加齢の現実直面させられます。にもかかわらず、お互いにインスピレーションを与え合うことができるこの学院は何と主の祝福を戴いていることよ、と思うのです。そして、私たちは主にあってそれぞれに成長させていただいていることは実に感謝なことです

この成長については、学院のこれまでの歩みを通して、個人の経験としても、試練なしにはないことを御言葉も示しているように私たちは体得してまいりました。象徴的とでも言いましょうか、もう一つの成長のステップを過ぐる夏に戴きました。いつものこととして、誕生月の検診を受けたところ、レントゲンに影があるということで、CT検査、そして、肺ガンの発見となったのです。それこそ先を急ぐようにスケジュールが定められて、諸々の検査、手術とすべて主にゆだねて、医療に従っていかねばならない自分を見いだしたのです。自分ができること

理事長・学院長 増田 蒼雄

(詩篇103篇 5 節)

▼増田先生快気後、ヨハネの福音書の学舎で



は祈って、ゆだねることだけ！摂理とでも言いましょうか、手術日は76歳の誕生日でした。今年の誕生日プレゼントはガンの手術と思いきや、三日後の昼下がり、まるで「啓示」のように与えられるのは、「更新のいのちのプレゼント」という思いでした。主治医の「ガンは採れました」という言葉にただただ主に感謝するのみです。

冒頭の聖句は一同窓生が入院前に証しと下さった言葉の中のものでした。これも75歳の不思議としての聖句暗記の中に入れて諸検査中に支えになりました。暗記した聖句をそらんじていると大体20分程かかり、その間に検査も終わるわけです。

「新しくなる」とは、鷺の羽毛が生え変わることで、更新のいのちの活力を示しているといわれます。この新しい年、皆様方もまた、学院もこのいのちのプレゼントを主より豊かに戴いて新しい主の御業を共に拝することができますように御祈り致します。

お交わり：「OBIサマースクーリングと同窓会に出席して」

中川 和代（第7期卒）研究科

OBIのサマースクーリングが例年のように、軽井沢の恵みシャレーで7月10日より開かれました。私は、今回が初めてのスクーリングの参加者でした。講師は野田秀先生で「教会生活の深まりを求めて」と題してメッセージが語られました。

語られた内容は；私たちは個人、家庭、社会生活をしています、クリスチャンには教会生活がプラスされます。第1テモテ3章15節より、「教会の土台は真理である。」しかし、問題のない教会はなく、いろんな人がいて、それは今も昔も変わらない。気遣いすると疲れます。しかし、第2テモテ2章24,25節より「争わず柔和に教え、忍ぶこと」。それには急がない、威張らない、いじけない事が大切。自分の心に仕えるのではなく、神と人に仕えたと教えられました。都会の暑さ、雑踏を離れ、自然の中で感謝な学びでした。



昼食後、OBIの同窓会が場所を変えて、閑静な「鹿島の杜ホテル」で同窓生、先生方を含め、20名ばかり集まりました。松岡常子姉のお祈りで始まり、会員皆様方の近況報告、教会事情、個人事情を含めて喫茶室で交わりをしました。先生方からもOBIの現況につての報告がありました。1時間少々が、あっという間に過ぎました。森登兄のお祈りで閉会。この交わりから、新しい力と励ましを戴きました。最後の日には、午後から軽井沢追分教会で音楽会が催されました。

OBI講師として：「聖書人生講座」の紹介

講師 中島總一郎（第13期卒）研究科

聖書人生講座が始まりました。私たちが社会において力強く正し歩んでいくためには、正統的かつ実践的な信仰に基づいて生活していく必要があります。信仰に従った確固とした人生を自分のものにする秘訣は、それほど多くもなくむづかしくありません。信仰の本質を身に付け、それに従って日々行動していくことです。この考え方に基づいて本講座は組み立てられております。

本講座は、通年でまとまるように構成されておりますが、半期だけでも要点が把握できるようになっています。各半期の前半は、実人生に関わる信仰の基本知識を学ぶ「人生聖書論」であり、後半は、聖書信仰に基づいて実生活のさまざまな問題や課題にどのように取り組み、乗り切っていくかの「聖書人生論」となっています。

半期15回の各講座のテーマはそれぞれ異なっており、例えば現在開講中の「人生聖書論」では、1.信仰の必須知識 2.キリスト教信仰の本質、3.聖化とは、4.箴言考察などであり、「聖書人生論」では、1.生きる目的、2.働く意義と喜び、3.科学と信仰の関係、4.結婚の備え、5.死とは何か、などです。講座テーマと使用テキスト頁の詳細は、OBI事務局に置いてある「講座シラバス」に紹介してあります。

本講座の特長は、講師の38年間の実社会での体験、実践済みであることと、できるだけ分かりやすくするために図解を多用していることです。使用テキストは、レジュメの他に講師既刊の著書6冊※ですが、他に必要に応じて参考文献を紹介します。受講生にはテキスト本を超割安で提供します。各半期ごとに類似、関係したテーマを取り上げ、別の観点から検討し、各期ごとの内容が互いに補強し合うことによって確信を深め、視野を広げることができるようにしてあります。一人でも多くの皆様が受講され、充実した生涯にする糧として戴きたく願っています。

定年を迎えるまで、教会に奉仕しつつも、本業として物や組織の開発、育成に取り組んできましたので、今後は人を育てることに関わりたいと祈りを積んできました。その結果、主の御配慮によりお茶の水聖書学院に入学を許され、卒業後は、人どころか人の魂を霊的に育てることに携われるように導かれたことは、この上ない感激であり、感謝であります。主の前に心を引き締めて、仕えることを献げていきたいと身を整えています。教材にも用いておられる中島講師の御著※：『天命に立つ』『知恵に生きる』『聖潔の探求』『愛の完全』『満たされた生活』『死と神の国』<http://bmp.jp> に本書の内容紹介のコメントがあります。

学舎から：「家族関係論入門」（堀肇師）から頂いた恵み

田中 恵子（第9期卒）研究科

「器官は多くありますが、からだは一つ……それどころか、からだの中で比較弱いと見られる器官が、かえって、なくてはならぬもの……しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだをこのように調和させてくださった……一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ……」（Iコリント12：22～26）

最近、新聞やテレビを通し「いじめ」、「自殺」、親子間の「殺人」等のニュースが、日常茶飯事のように入ってきます。その報道の中で、原因探し、犯人探しをして短絡的に問題を解決しようとしている状況を聞くにつけ、心が痛みます。「弱い立場にある人や弱さを持っている人が、全体の中でどのように考えられているかが、その集団を示すバロメーターになります。」先生の言葉が心に響きます。授業を通し、その痛ましい事件の背後に目をとめる必要性に気付かせて頂き感謝です。

前期の授業では、家族を「家族共同体」として捉え、家族にも発達段階

お交わり：「OBIサマースクーリングと同窓会に出席して」

中川 和代（第7期卒）研究科

OBIのサマースクーリングが例年のように、軽井沢の恵みシャレーで7月10日より開かれました。私は、今回が始めてのスクーリングの参加者でした。講師は野田秀先生で「教会生活の深まりを求めて」と題してメッセージが語られました。

語られた内容は；私たちは個人、家庭、社会生活をしています、クリスチャンには教会生活がプラスされます。第1テモテ3章15節より、「教会の土台は真理である。」しかし、問題のない教会はなく、いろんな人がいて、それは今も昔も変わらない。気遣いすると疲れます。しかし、第2テモテ2章24,25節より「争わず柔和に教え、忍ぶこと」。それには急がない、威張らない、いじけない事が大切。自分の心に仕えるのでなく、神と人に仕えたと教えられました。都会の暑さ、雑踏を離れ、自然の中で感謝な学びでした。



昼食後、OBIの同窓会が場所を変えて、閑静な「鹿島の杜ホテル」で同窓生、先生方を含め、20名ばかり集まりました。松岡常子姉のお祈りで始まり、会員皆様方の近況報告、教会事情、個人事情を含めて喫茶室で交わりをしました。先生方からもOBIの現況についての報告がありました。1時間少々が、あっという間に過ぎました。森登兄のお祈りで閉会。この交わりから、新しい力と励ましを戴きました。最後の日には、午後から軽井沢追分教会で音楽会が催されました。

OBI講師として：「聖書人生講座」の紹介

講師 中島總一郎（第13期卒）研究科

聖書人生講座が始まりました。私たちが社会において力強く正し歩んでいくためには、正統的かつ実践的な信仰に基づいて生活していく必要があります。信仰に従った確固とした人生を自分のものにする秘訣は、それほど多くもなくむづかしくありません。信仰の本質を身に付け、それに従って日々行動していくことです。この考え方に基づいて本講座は組み立てられています。

これらの学びを通して、聖書の世界の広がり、深さ、世界歴史も、主の御手の中にあることを思わされます。2年前の学びの後、パウロの足跡を辿る旅を行い大変好評でした。今回もアンケートを採りました。モーセの辿ったシナイ山や、終焉の地ネボ山、ヒゼキヤのトンネル、ヨルダン、イスラエルの10日間の旅を計画しております。出発は2007.3月14日～23日です。多くの方のご参加を期待しています。

私事ですが、今春より日本同盟基督教団の信徒理事に任じられました。先に救われた者の使命として、神と人に仕えて参りたいと思います。

栄光在主

感謝な学舎：『OBIにつながり続ける恵みと喜び』

三浦 喜代子（第1期卒）研究科

『あなた方自身とその手足を義の器として神にささげなさい』（ローマ：6章11節）

1991年春、開校と同時にOBIに導かれて16年になろうとしています。その間ずっと途切れることなくつながって来れたことに、改めて主の不思議を感じます。同時に、感謝と喜びがあふれてきます。研究科生としては今年で13年です。その間に『あかし文章講座』の講師として、また現在は常任理事として、学院のニュースレター編集人として、学院の諸活動に係らせていただいています。母校で奉仕できるのは、所属教会で主に仕えるのと同様にたいへん光栄なことだと心から感謝しています。

OBIでは毎週火曜日朝、祈祷会をしています。クラス開始前のわずかな時間ですが、先生方、スタッフ、学院生が集まります。私もできるだけ駆けつけています。同窓生のためにも毎回必ず祈りが捧げられています。どうぞ覚えて下さい。

今年はOBIにとっては厳しい試練の時でした。私たちの恩師であり霊の親である敬愛する増田師が体調の異変から入院、手術されました。また、学院の経済運営面を一手に担ってくださっている第4期生の佐野謙次兄も入院、手術となり、長期の闘病をされました。今は、お二人とも主の力強い癒しによって、驚くほど回復され、ともにOBIのクリスマスを迎えられますこと、ただただ主に感謝です。主を崇めます。

私の小さなミニストーリー『あかし文章教室』活動は、昨年の秋に、聖書の女性レアとラケルの物語『美しき姉妹たち』が出版され、著書は7冊になりました。これもOBIの学びから生まれたもので、OBIに導かれなかったら、できなかったことです。

今年は一年まるごと、当節流行のブログをネット上に開設し、もっぱらそこを窓口のエッセー風のあかし文章を発信してきました。ブログ名は『希望の風』と言います。ネットはクリスチャン以外の方も見ますので少しでも主の御名を広げるのに役立てばと祈りを込めて綴っています。

<http://kibounokaze.junem.jp>

伝道者として：「みことばを宣べ伝えなさい。」

中村 良子（第4期卒）

「時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」

（Ⅱ テモテ4章2節）

私は、教会学校奉仕に携って43年になりますが、昨年、年を理由に、キャンプや特伝説教等を断った途端、病気で床に臥せってしまいました。考えさせられたことは、今日まで神様のして下さった数々の恵みや学び、訓練を通して身に付けさせて下さった事を次の若い世代に継承していくことです。このまま召される訳には行かない。「神様、もう一度力を下さい。」と祈り、幸い今年は元気を回復。キャンプや特伝等、神様の栄光を拝する恵みに与りました。その中で、神様が私の願いを適えて下さっていることに気付かされました。私は16歳の時、救われ受洗しました。19歳の時、祖父が亡くなったのですが、彼に福音を伝えることが出来ませんでした。どのように話せばよいか分からず、唯々「神様、神様」と泣き叫ぶばかりでした。私はそのことが心の痛みとなり「福音を語れる者になりたい」と願うようになりました。幸いにも、神様は学びと訓練の機会を与えて下さいました。今は、教会に求道してこられるお方や子供たちを、キリストに導く尊い働きを主人とともにさせて頂いています。

この夏、教会の信者さんの親御さんが次々に病気になる、1ヶ月に三名のお方が召されていきました。救急車で運ばれたと知らせを受けるや否、病院に急行。福音を語り、決断を迫り、幸い神様の哀れみにより間際で救いに与ることが出来ました。

「今」と神様に語りかけられた時、直ぐ福音を語る

器でなければならないと思います。祖父に何も語ることが出来なかった少女時代を思い出し、今、福音を語る宣教の器として下さった神様にもう一度深く感謝する出来事でした。主よ、感謝です。

証し：「恵みによって強くなりなさい。」

依田 和子（第8期卒）

18歳の時、主の十字架の罪の赦しと全身十字架の愛に包まれきった私は直接献身を願いながらも「召命がなければ」と主の迫りを受けつつも頑固にも20数年を幼児教育に携わってきました。ある年、教会の夏季集会のなかで、その時も主より強く献身の迫りを感じ、それでも尚、「弟家族が同居してくれなければ、高齢の両親をおいては駄目です。」と主に言い立て、祈る中、突然講壇右上より、割れんばかりの凛とした声で「それがあなたに何の係わりがありますか。あなたは私に従いなさい。」と神の権威に満ちたお言葉に触れ、私はその場にひれ伏してしまいました。「主よ、分かりました。従わせて頂きます。」と感謝。地方公務員の幼児教育の場に直ぐ退職願を出しましたが、職場事情により1年後、献身の道を歩み出しました。

その1年間、私の献身に猛反対して来た母が、何とすっかり変わり「あなたの人生なのだからあなたが一番良いと思う道に進みなさい。」と心から送り出してくれた両親、今も感謝は尽きません。又、神学校を志願していた私に、三浦真照牧師は「是非久遠聖書学校で学んで欲しい。」との事、その中で教会音楽の基礎はOBIの教会音楽科で学ぶようにとの事で入試を受けました。その際、試験官であられた西脇先生から「総合科で学ばれたら」とお勧めを頂き、神学と教会音楽の関係の重要さに驚きつつ、OBIで「礼拝と音楽」、「教会音楽史」、「讃美歌史」と苦手な実技を何とか遣りこなしました。熱心にご指導下さる諸先生方、共に学ぶ兄弟姉妹との暖かい触れ合いの中、目を輝かせて学ばせて頂いたことは、私の宝です。二つの学校での学びを終え、内心私は、“パウロの如く霊に燃え”と夢中で伝道師として奉仕させて頂いています。今秋、体調を崩し、心身共に弱さを覚え始めました。燃えていたのは自我の熱心であったこと、いと小さき貧しき者に主の恵みが

降り注いでいることを悟らせてくださいました。今、第2コリント書12：9のみ言葉「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」により悔い改めました。ロマ書5：20のみ言葉「律法が入ってきたのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるところには、恵みも満ちあふれます。」とともに一步一步、主のみ跡を付き従いたく願わされています。主にあることの喜びを心から感謝しています。又、皆さまのお祈りを心から感謝申し上げます。在主。

祝福感謝：「献堂の喜び」米田由起子（第6期卒）

待ちに待った11月23日、我孫子福音キリスト教会は献堂式を迎えました。緑の屋根に白い壁、三階建ての美しい教会が建ちました。礼拝堂は吹き抜けで正面に真っ白な十字架が高々と掲げられています。心配された天候も守られ、県外からも連合の牧師さんや懐かしい方々が集われ、会堂はいっぱいになりました。

新会堂を建てようと計画が始まったのは、1999年です。宗教法人化には適法な会堂が必要なこと、教会が手狭になったということからでした。会堂建設委員が選ばれ、第一期の委員が建設ヴィジョン、理念を作成し、2001年、第二期会堂委員に引き継がれ、地質検査、崖地の擁壁の調査から始まり、懇談会、教会債の準備など次々と進めていきました。クリスチャン四社による設計競技をし、A社のS氏が設計監理に選ばれました。建築の見積りを依頼する段階になったところで、千三百万円の資金不足が判明しました。規模を縮小するか、建設を保留するかなど建設委員会はどん底に落ちたような事態になりました。設計士のS氏に相談すると、「この設計図はもう私の設計ではなく、主からのマスタープランなのです。」と言われ、エペソ四章十六節のみことば「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して愛のうちに建てられるのです。」によって励ましてくださいました。エレベータ、床暖房、三階内装工事などを次期工事とすること

で設計図通りになり、会堂建設にアドバイスを戴いた地元のY建築が二月から工事を始め十一月、完成に至りました。

私は第二期建設委員の一人に選ばれ、書記を担当させて頂きました。その間の二年間、C型肝炎の治療を行い、完治するという経験もしました。献堂式では原先生、教会員とともに献堂の辞を心合わせて告白し、聖歌隊が讃美歌二百九番を賛美しました。式の間も感謝会でも何度も涙が溢れ、兄弟姉妹と喜び合い、主に感謝を捧げました。

讃美歌209番：

♪主よ、今みまえにささげまつる
みとのに平和をみたしてたまえ。
♪♪ゆたけきみめぐみあふれいでて、
ときわにたえせず、世をうるおせ。
♪♪♪主のみとののため きよき友と、
こころあわせて せつにいのらん。
♪♪♪♪主よ、今よりのちこのみとのを
みむねのまにまに もちいたまえ。

お知らせ：研究科の学び公開講座について

今年は昨年に続いて、レイモンド・ブラウン博士著『Four Spiritual Giant』（4人の霊的巨人）を増田先生訳のテキストで学び続けています。今年の巨人は、ジョン・ウエスレーです。10月、11月は横浜ホーリネス教会牧師、東京聖書学院名誉教授の藤巻充先生をお迎えして特別講義を拝聴しました。

1回目は《教会、教職、信徒の行き詰まりを打開するジョン・ウエスレー》、2回目は《ジョン・ウエスレーの信徒論》と題して、ウエスレーの生涯とその神学を深く論じていただきました。

さて、来年度は4番目の巨人として、ジョン・バニヤンを学びます。オープン講座になりますから、どなたでも受講できます。どうぞ参加してください。



交信広場： 6/26 黒澤すぎの姉；主の聖名を崇めます。素晴らしい通信を頂き感謝申し上げます。学院の発展を祈り、同窓会費を送らせていただきます。主の御栄が学院を通して祝されますように祈ります。

7/27 依田和子姉；OBIニューズレター21号、新しくなりましたニューズレター大変嬉しく拝見させて頂きました。学院の御様子、皆様の御様子お伺いして大変励みなり又感謝でした。更に御祝福をお祈り申し上げます。

8/11 安西仁美姉；住所変更がありました。新住所は〒285-0836 佐倉市生谷1417-5 電話番号変わりません。よろしくお願いいたします。

9/11 長橋晴子姉；お祈り、お励まし下さり、感謝いたします。皆様、OBIの上に祝福をお祈りしています。増田先生の御回復のためにお祈りいたします。エリヤ会への御支援宜しく願います。9/12抗癌剤治療第2回です。

会計報告： 2006.4.1～12.15

献金収入；330,629円 （内訳 前年度よりの繰越 42,206円 献金288,423円）

支 出；190,013円

差引残高；140,616円

献金者名（敬称略、献金日順）有田美榮子、三浦喜代子、繪鳩彰、佐野謙次、三浦秀弥、堀口容子、増尾善文、増尾邦子、中島總一郎、三浦秀弥、杉山礼子、滝田幸恵、日名富子、永井みよ子、窪田淳子、森本馥、飯島多稼夫、窪井節子、黒澤すぎの、阿江美知代、渡辺英子、米田由起子、内田光子、中川和代、小林喜久男、須田松子、福井ちよ、戸川偕生、依田和子、小川智子、松岡常子、安西仁美、砂谷智枝、長橋晴子、三友庸子、田中恵子、浪井弘子、佐野謙次、染谷多真慧。（以上38名、40口）

今後の予定：

後期授業1月8日～2月16日 卒業式3月10日

OBI入学願書締切3月12日 試験日3月20日

入学式4月9日 前期授業開始4月10日

編集後記：今年は紅葉を遅くまで楽しむことができました。樹木が台風にあわなかったこともその理由の一つかも知れません。紅葉の葉を集めた一枚の写真を戴きました。今年は平和の内に終わりそうです。OBIにとっては、この夏は大変な試練を受けましたが、祈り通して勝利を得ました。増田学院長と佐野顧問の重責あるお二方が病に会われましたが、主はお二方に見事健康を回復させて下さり、大きく吐息をついた者の一人です。主に、心からお二人の回復を感謝しました。なお、お二方の傷痕を完治し、健康を維持していただきますように祈りを重ねます。今年もOBIクリスマスで、学院長の大きなMerry Christmas！のお声に励まされました。私たち一人一人に主の恵を期待しつつ、良き年を迎えることができますよう。

武蔵野晩秋残映三句

暮れ行くも 武蔵野丘に 残す秋
ともし燈の ひとつひとつや 闇深く
もみじ葉を 集めて唄う 平和かな
（読み人；編集子）2006.12.15発行